

サッカーって楽しいね

ベガルタ仙台レディースサッカー体験会

5月25日、「ベガルタ仙台レディースサッカー体験会」が白石第二小学校グラウンドで行われました。この日は、市内幼稚園・保育園に通う年中・年長園児と、市内小学生合わせて約100人が参加。正木裕史レディースヘッドコーチや現役プロ選手たちの指導のもと、ドリブル練習やミニゲームなどを行いました。参加した児童は「プロ選手から全然ボールが取れなかった。たくさん練習して、プロ選手のようにまくなりたい」と話してくれました。体験会の最後には、ベガルタ仙台などのグッズが当たる抽選会が行われ、サッカーの楽しさに触れながらプロとの交流を深めていました。



▲ボールを奪おうと川島はるな選手(中央)を追いかける参加者たち

100歳おめでとうございます

二瓶きよのさんに松竹梅敬老祝金を贈呈

5月23日、満100歳を迎えた二瓶きよのさんを風間市長が訪ね、祝詞と松竹梅敬老祝金を贈り長寿を祝福しました。きよのさんは、越河生まれで、結婚後、家業の農業に従事しながら5人の子どもを育てました。現在、孫が10人、ひ孫が5人います。いつも朗らかに過ごしているきよのさん。現在は、えんじゅに入所していますが、入所前のご近所の方とお茶飲みを楽しみにしていたそうです。好きな食べ物は、おはぎ。長生きの秘訣は「早寝早起きと好き嫌いなくなんでも食べることはないか」とご家族が話してくれました。



▲きよのさんの長寿をご家族や施設職員が祝いました

白石噺を和紙人形で再現

幸雅の和紙人形・三部作展

5月24日～6月15日まで、「幸雅の和紙人形・三部作展」が壽丸屋敷で開催されました。作品を制作したのは、柴田町の人形作家大槻幸子さん。大槻さんは、白石和紙と型染め和紙など数種類の和紙をふんだんに使い、歌舞伎の題材にもなった江戸時代の仇討ち話「白石噺」を再現する和紙人形など50点を展示しました。

6月7日には、白石噺に関する資料を多く所蔵する専念寺の徳力祐弘副住職も加わったトークイベント「白石噺と歌舞伎と和紙」が開催され、参加者は仇討ち話にまつわる話に耳を傾けながら作品を鑑賞していました。



▲和紙人形を前にして白石噺について話す徳力副住職(写真右)

昨年の雪辱を果たす

平成26年度白角定期戦で白高大勝利！

5月14日、「平成26年度白角定期戦」が白石高校と周辺施設を会場に開催されました。この定期戦は白石高校と角田高校が共学になる前から行われている伝統行事で、野球やサッカー、剣道など11種目で対戦。各会場では、両校のプライドをかけ熱戦が繰り広げられました。激戦の結果、9勝2敗で白石高校が大勝利！白高の勝利のために声を枯らしながら応援した同校応援団長の「大槻剛史さんは「前は敵地角田で負けてしまい、とても悔しい思いをしましたが、その雪辱を晴らすことができるとてもうれしい」と笑顔で話してくれました。



▲白高大勝利で大槻団長を胴上げ！

日本の伝統文化を再確認

第1回能楽師幽玄を語る会

6月7日、「第1回能楽師幽玄を語る会」が碧水園能楽堂で行われました。この催しは、10年以上にわたって同施設で能の指導を行っている、宝生流能楽師の當山孝道さんがボランティアで講師を務め、能舞台の特徴などについて解説した後、謡を披露。當山さんは「東日本大震災で能舞台が被災した。復旧した能舞台で、お世話になった白石市への恩返しをしたい」と思いを語ってくれました。また、解説を聞いた参加者は「能について優しく楽しく学ぶことができました。次回もぜひ参加したい」と充実した表情で感想を話してくれました。



▲幽玄について優しく解説する宝生流能楽師の當山さん

きれいなコイが泳ぐ沢端川に

震災復興祈念 沢端川でコイの放流会

5月20日、「コイの放流会」が沢端川「ふれいデッキ」で行われました。この催しは、U Aゼンセン宮城県支部(富永信明支部長)が市民や観光客の皆さんに沢端川を泳ぐコイを楽しんでもらいたいと、ヒゴイやニシキゴイなどを白石市観光協会(佐藤善一会長)に寄付したことによるものです。今回で2回目で、約100匹のコイが寄付されました。寄付の式典後、ひかり幼稚園の園児たちが次々にコイを放流。園児たちは、沢端川を元気に泳ぐ姿を見て「わー！」「元気に泳いでるね」などと歓声を上げていました。



▲コイを放流するひかり幼稚園の園児たち

生涯健康のために

県南ブロックグラウンド・ゴルフ交歓白石大会

5月14日、第31回仙南ブロックグラウンド・ゴルフ交歓白石大会が白石川緑地公園野球場で開催されました。この大会は、グラウンド・ゴルフを通じて生涯スポーツの振興を図ることを目的に、県南4市9町から300人を越える選手が参加。県南ブロックグラウンド・ゴルフ協会連絡協議会の佐々木常夫会長が「この大会は自分たちで企画運営する喜びがある。親睦・交流を重ね健康増進を図って欲しい」とあいさつして大会がスタートしました。

参加した選手たちは穏やかな春の青空の下で、1打1打を楽しみながらプレーしていました。



▲ねらい澄ましてナイスショットを決める選手

カブトムシ、大事に育てます

保育園などにカブトムシの幼虫をプレゼント

5月28日、社会福祉法人白石陽光園「生活介護とも」の利用者と職員が北保育園を訪れ、カブトムシの幼虫30匹を贈呈しました。この取り組みは今回で10回目。同施設では、地域とのつながりを大切にすることを目的に、カブトムシの飼育を平成18年に始め、市内の保育園や幼稚園など計10カ所に毎年プレゼントしています。

この日は、北保育園の3～5歳児33人がお出迎えし、幼虫の姿に興味深く観察しました。園児たちは同施設の職員から幼虫の育て方などの話を真剣に聞き、「大事に育てます」と元気に約束しました。



▲カブトムシの幼虫に興味深く観察する園児たち